

第 20 回 日本免震構造協会賞
－ 2019 －

一般社団法人 日本免震構造協会

応募者：株式会社竹中工務店 麻生直木、中根一臣、小倉史崇
 オイレス工業株式会社 西野允雅



TOSシステム せん断引張試験状況（撮影：オイレス工業株式会社）

概要

免震建物に対するニーズの高まりから、塔状比の大きい建物においても免震化されるケースが増えている。その場合、地震時に生じる転倒モーメントの増加から免震装置に過大な引張力が発生し、免震建物の計画における課題となってきた。この解決方法として、引張力を緩和する引抜き対応工法が着目されており、これまでも幾例かの開発がなされ、実用化されている。

今回開発した新たな引抜き対応工法「TOSシステム」は、免震装置のフランジプレートに特殊な加工を施す必要がなく、フランジプレートやフーチングサイズを最小限のサイズに抑えるコンパクトなシステムの実現を目標として開発を進めた。開発にあたっては、「TOSシステム」を設けた実大の積層ゴムに対して、鉛直方向及び水平動に対する性能を実験により確認し、2件の実施プロジェクトに適用した。今後も、高さ100m超の超高層プロジェクトへの適用を計画している。

選評

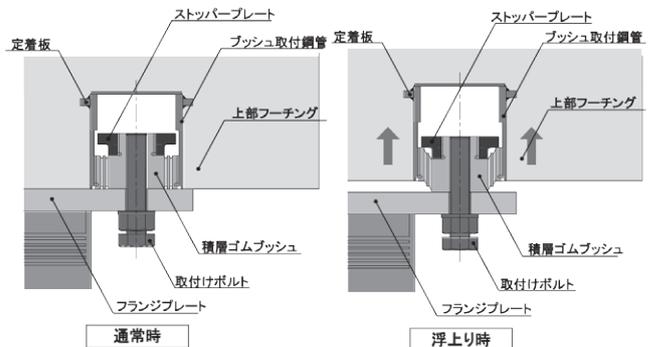
積層ゴム支承は水平方向に柔らかく、鉛直方向に高い圧縮剛性・耐力を有する理想的な免震支承であるが、引張剛性・耐力の低さが弱点であり、構造設計者は積層ゴム支承部の浮き上がりを防ぐべく構造計画上の工夫を重ねてきた。しかし、塔状比の高い建物や隅柱部では転倒モーメントや常時荷重の不足により、柱脚の浮き上がりを防ぐことが困難な場合がある。実際には支承部が部分的に浮き上がっても建物全体の重心が上がるため、建物が倒壊に至る危険性はほとんど無い場合が多い。本技術開発では支承アンカー部に引抜き力に対応して変形する特殊なブッシュ付き金物を装着することで、積層ゴムの引張力を一定以下に制御しながら浮き上りに追従させるものである。同様の技術は過去にも皿ばねを用いた方法等が和田らにより実用化されているが、座ぐりを伴う特殊なベースプレートを用いる必要があった。本研究は緻密なディテールの造りこみと丁寧な検証実験を通じ、通常仕様のベースプレートのままで浮き上がりに対応した積層ゴム支承定着システムを実現した点で有意義なものと判断される。（竹内 徹）

システム及び特記事項

「TOSシステム」は、免震装置上部のコンクリート躯体に設けた「積層ゴムブッシュ」と免震装置の上部フランジプレートをボルトにより接合するシンプルな構成としている。「積層ゴムブッシュ」は、円筒状のゴムと鋼板を積層した機構であり、引張力が生じた際には、円筒状の積層ゴムがせん断変形することで免震装置に生じる引張力の低減を可能としている。また、「積層ゴムブッシュ」を免震装置上部のコンクリート躯体内に設けたことで、免震装置のせん断変形時においても、浮上り機構である「積層ゴムブッシュ」と免震装置が干渉しないため、フランジプレートやフーチングの大きさが通常の接合方法と変わらないコンパクトな引抜き対応工法を実現している。

TOSシステムの引張剛性は、積層ゴムの引張剛性と積層ゴムブッシュの引張剛性の直列バネとして評価することができ、引張剛性は積層ゴムの圧縮剛性に対して約1/400まで低減することができる。

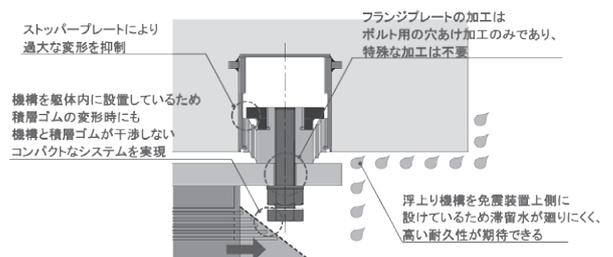
開発に当たっては各種の性能確認試験を実施しており、システム全体が引張変形に対して円滑に動作し、理論値が精度良く評価されていることを確認した。また、TOSシステムを設け、かつ引張変位が生じた状態においても、通常の積層ゴムの水平特性と同等の性状であることを確認している。



TOSシステムの浮上りメカニズム



積層ゴムブッシュ（撮影：オイレス工業株式会社）



TOSシステムの特徴

建築主：日本放送協会
 設計者：株式会社山下設計 塩手博道、松澤祐介
 施工者：株式会社大林組 高橋賢一



建物外観（撮影：川澄・小林研二写真事務所）

建築概要

建設地：仙台市青葉区本町2丁目20番他
 建築主：日本放送協会
 設計：株式会社山下設計
 施工：大林組・橋本店特定建設工事共同企業体
 建築面積：3,834.67㎡ 延床面積：23,630.05㎡
 階数：地上7階、地下1階 高さ：40.18m
 (99.78m 鉄塔含む)
 構造種別：S造（一部SRC造）

選評

免震機構を活用しながら、意匠と構造を高いレベルで融合した魅力的な建築である。“杜の都” 仙台のシンボルである定禅寺通と錦町公園に隣接し、その立地にふさわしい外観と人を呼び込むしつらえによって、街に開かれた放送拠点を実現した。

視聴者に公開するゾーンは全面ガラス張りとして開かれた空間を演出する一方、番組の制作などを行う執務室は市松模様の耐震格子パネルで覆い、その対比が建築に彩りを添えている。市松模様の耐震格子パネルは、免震機構の効果を高め、大きな柱割りを実現するのに貢献しており、この建築における意匠と構造の融合を象徴する存在となっている。

さらに、大地震時でも放送機能を継続できる施設づくりに向け、受発注者が話し合いを通じて応答加速度や応答層間変形角などの制限値を設定し、その目標を達成すべく構造設計を進めたプロセスそのものも評価したい。東日本大震災を踏まえた災害に強い放送拠点づくりと、街なかのにぎわい拠点づくりを見事に両立させている。
 (畠中 克弘)

免震化した経緯及び企画設計等

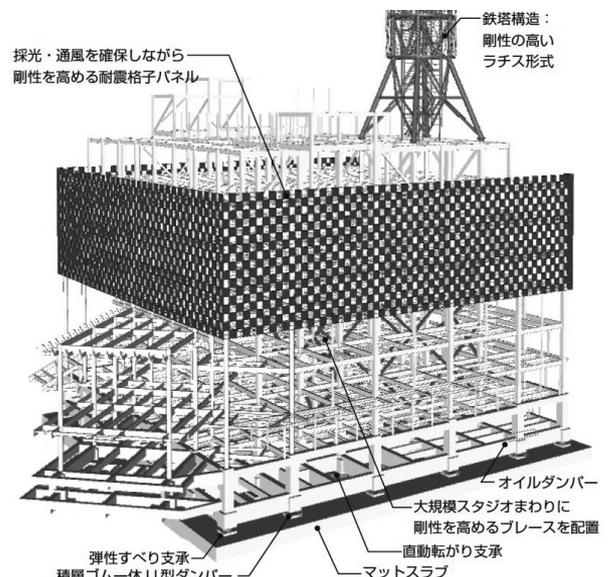
旧会館は、東日本大震災で衛星中継室のある塔屋が一部被災しながらも頻発する余震の中で放送を継続した。NHKはこの経験を踏まえ、基本コンセプトの一つとして「大きな地震でも放送が継続できる建物構造とインフラ機能を整備した放送局を目指す」を掲げた。発注仕様は免震構造を採用し、レベル2地震動クライテリアとして、本体・鉄塔とも層間変形角 1/200 以下・短期許容応力度以下、免震装置は性能保証変形以下とした。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

放送機器転倒防止やスタジオ照明等の落下防止を図るため応答加速度 250gal 程度以下とし、鉄塔のせん断変形成分を 1/200 以下とすることでアンテナ固定ボルト等の損傷を防止することとした。建物上部に設置した頂部 99.78m となる鉄塔の大地震時応答変位を抑制するため、免震層の長周期化を図った（周期 6 秒程度）。また、本体部分を一般的な層間変形角 1/300 程度の剛性とした場合に対し、より硬くすることで高次モードの影響を抑制し、応答変形角を目標に納めた。本体の剛性向上の具体的方法として大型スタジオ周り（1～3 階）へブレースを配置し、4～6 階建物外周に耐震要素と外装下地を兼ねた耐震格子パネルを設け外観の特徴とした。



耐震格子パネル（事務室内観、撮影：川澄・小林研二写真事務所）



応答加速度や鉄塔応答変位抑制を実現する構造計画概要

建築主：YKK 不動産株式会社 吉田忠裕
 設計者：株式会社日建設 原田公明、田原一徳
 施工者：鹿島建設株式会社 高橋 亘、兒玉哲志



建物外観（撮影：Rainer Viertlböck）

建築概要

建設地：東京都千代田区神田和泉町1
 建築主：YKK 不動産株式会社
 設計：株式会社日建設
 施工：鹿島・戸田・大和ハウス工業建設共同企業体
 建築面積：2,059.63㎡ 延床面積 22,574.44㎡
 階数：地上10階、地下2階 高さ：39.95m
 構造種別：地下 SRC造、鉄骨造
 地上 SRC造、CFT造、鉄骨造

選評

本建物はYKKの本社ビルであり、BCPの観点より大地震時に無被害にとどめる高い耐震性を確保することが求められた。L字型の敷地形状で、40mの高さ制限があることから、地下2階、地上10階の免震構造が選択された。上部構造はCFT柱とテーパータテ持たせたSRC大梁、スラブ厚さ300mmでスパン9.84mの小梁のない一方向ハーフPCフラットスラブを採用することで、3,850mmの限られた階高であるにも関わらず、最大天井高2,800mmを実現している。大梁間の天井懐内を天井放射冷暖房に活用し、かつ、この空間に火災時の防煙の役割を持たせることで、大梁自身が防煙垂壁を兼ねることが可能となり、意匠的にもすっきりした天井面の構成に成功している。免震層空間には外気を取り入れて、クールヒートトレンチとして地中熱利用を図り、結果的に免震層のカビ防止としても機能している。意匠、構造、設備、施工が見事に融合した免震建物である。

当初設置が見送られた構造ヘルスマニタリングシステムが、施工途中に社員から安全性を確認したい、との要望で設置されることになった点も評価したい。BCPをより着実なものにするモニタリングシステムのさらなる普及への貢献も期待したい。（三田 彰）

免震化した経緯及び企画設計等

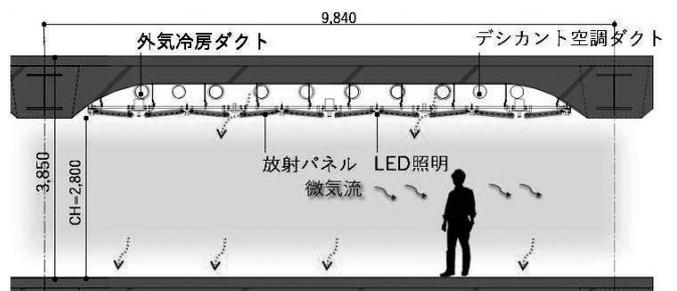
本建物は本社機能を有しているため、BCPの観点より災害時の主要機能確保のため、当初から免震構造として計画を進めた。大地震時に無被害あるいは軽微な被害にとどめるハイグレードな構造の建物である。また、L字型の敷地形状、地区計画による高さ制限(40m)に配慮しながら、本社ビルとして必要な床面積を確保しつつ、限られた階高(3.85m)の中で可能な限り天井が高く快適なワークスペースを生み出すため、免震構造、CFT柱、小梁のない一方向RCフラットスラブ構造等を構造設計者から積極的に提案した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

基準階においては、限られた階高の中で最大限の天井高(2.8m)を確保するため、天井内スペースを極力切り詰める必要があり、一方向RCスラブによる小梁のない架構(スパン9.85m)を採用し天井内の自由度を高め、空調ダクト、放射パネル、LED照明を配置する計画とした。スラブ端部でSRC大梁とスラブのせいを揃えることで、見える躯体の造形性のみならず、スラブに対してはスラブの応力との整合を図りつつ建物の水平剛性を確保することにも寄与させている。免震構造により上部構造の地震力を低減することで、CFT柱とSRC大梁によるラーメン架構という特徴的な架構計画を実現し、高い耐震性能と開放的な建築計画・平面計画を実現した。建築・構造・設備の融合した高性能免震本社ビルである。



CFT柱とSRC大梁および一方向スラブ躯体（撮影：日建設）



建築・構造・設備の収まり概念図

建築主：株式会社朝日新聞社 宍道 学
 株式会社竹中工務店 橋 明宏
 設計者：株式会社日建設計 吉田 聡
 株式会社竹中工務店 佐分利和宏
 施工者：株式会社竹中工務店 桑原貴士



内外観写真 [東出写真事務所 (1,2,3,5), ナカサアンドパートナーズ (4)]

建築概要

建設地：大阪市北区中之島三丁目
 建築主：株式会社朝日新聞社、株式会社竹中工務店
 設計：株式会社日建設計（構造・設備設計協力 竹中工務店）
 施工：株式会社竹中工務店
 建築面積：6,106.48 m² 延床面積 151,146.45 m²
 階数：地上41階、地下4階、塔屋2階 高さ：195.67m
 構造種別：制振構造 S造 / SRC造 / RC造

選評

事務所、ホテル、店舗、美術館、ホールなどが縦方向に複合し一つの街を形成している超高層ビルである。低層部の大きな外壁面に集中的に制振部材（オイルダンパー）を配置し免震構造と同等の耐震性を確保している。東側の3層分の高さを有すピロティ部分では巨大な自立壁（Big Wall）により三層分の層間変形を利用した制振効率の高い架構としている。このBig Wallはビルの基礎としての視覚的な安定感をもたらしている。

使い勝手の良い無柱空間のオフィス部分は、さらに外周の細柱によってすぐれた眺望を得ている。また、ホテル内のらせん階段が箱型断面を用いた浮遊感にあふれるデザインであることなど構造と意匠の統合によって実現された見どころは多い。

隣の中之島フェスティバルタワー（第15回作品賞）と同等の高い耐震性能と、同じく評判の良かった免震の採用を建築主より要望された…とのこと。しかし設計者は同等の安全・安心をまったく別の方法で示し、説得・実現した。その高い力量と真摯な態度、また中之島フェスティバルタワーと異なるソリューションを用いながら見事に息の合ったツインタワーのたたずまいを得ていることに対する賞賛が含まれた形での受賞である。

（井田 卓造）

制振化した経緯及び企画設計等

本建物は、中間層免震構造である中之島フェスティバルタワーに引き続いて建設されたツインタワープロジェクトの2期目となる建物である。建物用途はオフィス、ラグジュアリーホテル、文化交流施設等で、建築主からは1期目と同等の高い耐震性を確保することが求められた。

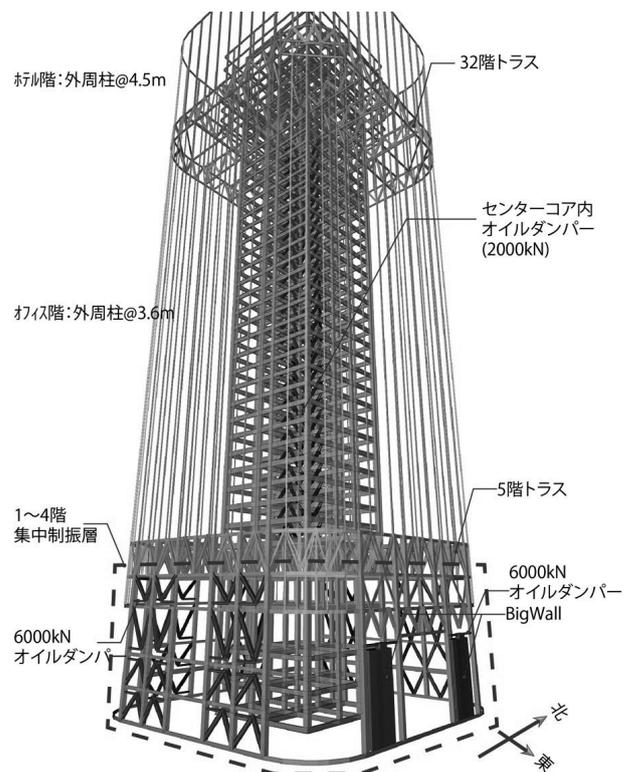
種々の検討の結果、低層部の外装が大きなレンガ壁面となることに着目し、壁面内に粘性ダンパーを集中配置した低層階集中制振構造が本建物に最適な構造システムであり、高い耐震性能を実現できると判断した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

建基法極稀地震に対し、ツインタワーで共通の設計目標（層間変形角 1/150 以下、部材は弾性範囲）とし、集中制振部分も同じ設計目標としている。

過去に例のない大規模な低層階集中制振構造を建築計画と整合して実現するため、6000kNの最大減衰力を発揮する新開発のオイルダンパーを採用している。

東面はピロティに面することを利用し、Big Wallと呼ぶ自立壁により、3層分の層間変形を利用した効率のよい制振架構を実現している。



架構パース



建物南西面外観 (1 階廻りの外装意匠を堅持)

建築概要

建設地：東京都中央区日本橋本町 3-6-2
 建築主：株式会社小津商店
 元設計：株式会社久米設計
 元施工：鹿島建設株式会社
 設計：鹿島建設株式会社、
 株式会社剣持デザイン研究所 (内装)
 施工：鹿島建設株式会社
 建築面積：796 m² 延床面積 8,189 m²
 階数：地上 11 階、地下 2 階 高さ：40.9 m
 構造種別：鉄骨鉄筋コンクリート造

選評

小津本館ビルは江戸時代以来の創業の地である日本橋において、和紙の伝統と文化を守り、和紙に関する情報を国内外に発信する重要な拠点として 1971 年に竣工された。旧耐震建物ゆえに耐震性が低く、東日本大震災を契機に、耐震改修と免震改修それぞれの案が検討された上で、免震改修が決定されたが、敷地一杯にビルが建つことから 1 階柱頭免震が採用された。

工事中及び工事後のテナントへの負担を最小にするため 4～10 階のテナント内での補強を最小限とし、工事中においても建物所有者・テナントの利用する EV を常に 1 台は稼働することでビルとしての営業を可能とした。また施工中の耐震性を確保しつつ、躯体を補強しジャッキアップしながら柱の切断や免震装置の設置を無事故・無災害で行った。

また建物所有者と顧客に長年親しまれてきた外観や 1 階店舗の内観デザインを踏襲する必要があった。免震水平スリットは細部の納まりを工夫して目立たないデザインとすることで、免震建築であることを全く意識させず、深い愛着のあるオリジナルデザインを守ったことは特筆すべきである。

都心の狭隘敷地に立地する中規模オフィスビルの技術的課題を乗り越え、居ながら工事の免震改修で江戸時代から続く老舗の事業継続に貢献した業績は高く評価したい。(江副 敏史)

建築主：株式会社小津商店 中田範三、安江敏行
 設計者：鹿島建設株式会社 丸山茂生、工藤利昭、松本 航
 株式会社剣持デザイン研究所 (内装) 高山与志郎
 施工者：鹿島建設株式会社 松元秀憲、市川大輔

免震化した経緯及び企画設計等

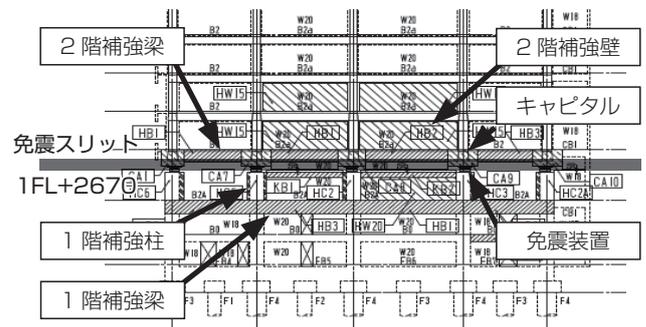
小津本館ビルは、江戸時代 (1653 年) 以来の創業の地である日本橋にあって、和紙の伝統と文化を守り、和紙に関する情報を国内外へ発信する拠点として 1971 年に竣工した。しかし、旧耐震建物の耐震性向上のため、2011 年東日本大震災を契機に、各階に耐震要素を付加する耐震補強案との比較検討の上、主に免震階とその上下階を集中的に補強することにより上層階のテナントへの影響を最小限に抑える免震補強案が採用された。

当建物は、ほぼ敷地一杯に建っているため、基礎下や地下階での免震方式は適用できず、建築主および行政と協議を重ね、唯一実現可能であった 1 階柱頭免震を採用することになった。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

和紙に関する文化的エリアである 2～3 階の過半および貸事務室エリアである 4～10 階は、2 年間の工事期間中も稼働しながらの居ながら工事であった。既存の 1 階柱と上下階の大梁を増打ち補強し、2 階レベルに反力受けの PC 鋼線内蔵の RC キャピタルを構築すると共に、1 階柱中間部に鋼製の仮設反力台を PC 圧着で設け、3 つの工区に分けながらジャッキアップ・柱頭部切断し、各柱に計 20 基の鉛プラグ入り積層ゴムを設置した。

3 台の EV は 2 階から鋼製シャフトを吊り下げ、常に 1 台稼働させつつ 2 台へ更新。隣地境界まで張り出していた外部 RC 階段は後退させつつ S 階段へ更新。内部 RC 階段は地震時の壁の可動範囲を床に着色し注意喚起。設備配管・配線・ダクト類も全て 1 階柱頭レベルで免震継手や余長確保。1 階廻りの外装・内装は、止水・耐火・遮音を満足する免震水平スリットを設け、ディテールの工夫によりオリジナルデザインを堅持した。



構造躯体の補強・免震化概要



免震改修後の 1 階 EV ホールと和紙店舗 (免震化を意識させない納まり)



建物外観（正面が増築棟、左側が既存棟 撮影：エスエス大阪）

建築概要

建設地：大阪府吹田市千里山東
 建築主：学校法人関西大学
 建築設計：株式会社佐藤総合計画
 +株式会社星田逸郎空間都市研究所
 （増築棟および既存棟改修設計）
 構造設計：株式会社満田衛資構造計画研究所
 （増築棟および既存棟耐震改修設計）
 施工：大成建設株式会社
 （増築工事および既存棟改修工事）
 建築面積：1054.5㎡（既存棟）429.65㎡（増築棟）
 延床面積：4322.77㎡（既存棟）1360.48㎡（増築棟）
 階数：地上4階 高さ：19.46m
 構造種別：鉄筋コンクリート造

選評

本建物は村野藤吾氏設計による既存建物の外観と内観を殆ど変更することなく、高い耐震性を付与した制振改修事例である。本建物は既存棟の改修に合わせて増築棟が計画されていたため、連結制振により増築棟と併せて耐震性を向上させる手法を提案し実現した。増築棟は既存棟の長辺方向に隣接するが、既存棟の長辺方向にプレストレスを加え梁の補強も行った。短辺方向には一部壁の補強を行った。これにより制振ダンパーは増築棟と既存棟の間に設置するのみで応力伝達を効果的に行うことを可能とし、連結制振として効果的に応答低減が可能となった。一般的な耐震改修では既存建物内の多くの構面にブレースや耐震壁を付加する方法をとるが、その場合当初のデザインを失うばかりか使い勝手も損なう恐れがある。この問題を解決する方法として免震改修がある。免震を利用すれば、既存建物のデザインと機能を殆ど変更する必要はないが、コスト面で課題が残る。本建物では耐震改修への免制振技術の活用手法として低コストで有効な手法を提案していると同時に、このような手法を使う場合に踏まえる必要のある増築棟の剛性付与や既存棟へのプレストレスの付与などを提示しており、今後の免制振改修の展開に大いに参考になる手法の実現として業績賞に選定した。（東野 雅彦）

受賞者：満田衛資 京都工芸繊維大学／株式会社満田衛資構造計画研究所
 江畑和弘 株式会社満田衛資構造計画研究所
 井下仁史 株式会社佐藤総合計画 関西事務所
 星田逸郎 株式会社星田逸郎空間都市研究所
 重田勝紀 学校法人関西大学 管財局

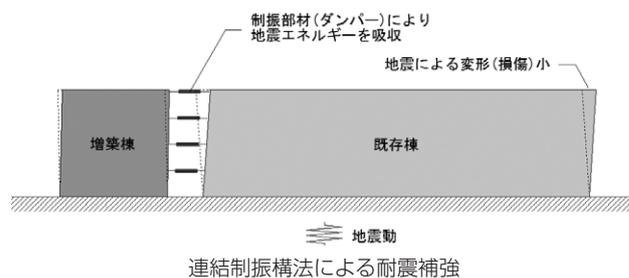
制振化した経緯及び企画設計等

関西大学第4学舎1号館学舎棟（既存棟）は、建築家・村野藤吾により設計された1960年竣工の建物であり、緑豊かなキャンパス景観に馴染んだ建物である。既存棟の改修にあたっては、部屋の使い方を制限する増設壁等は施設利用上適切ではなく、外壁へのブレース追加等による補強はキャンパス景観上好ましくない、等の要望が挙げられていた。本計画では、既存棟に隣接して増築棟が計画されていることに着目し、両棟を制振ダンパーで連結する連結制振構法による耐震補強を行っている。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

築50年超の既存棟は断面も華奢で壁量も少なく、剛性は通常のRC建物に比して柔らかい。一方、新設される増築棟は壁の厚さも長さも調整可能であり、通常の建物以上に固くつくることできる。両棟の固有周期の違いを利用して連結制振の効果を高めることで、既存棟への耐震壁の追加やアウトフレーム補強が不要となり、施設としての利便性確保と村野建築の保存再生を両立している。

プレストレスを用いたダンパーと既存棟との接続や、既存棟の剛性を高めずに補強可能なSRF工法（柱や壁にポリエステル繊維を貼り付ける補強工法）の採用等、種々の技術により連結制振構法を補完することで計画を実現している。



改修後既存棟中廊下



棟間をつなぐダンパー

天井の4本の黒いケーブルがPC鋼線（左右とも撮影：エスエス大阪）

第21回(2020年)日本免震構造協会賞募集

一般社団法人日本免震構造協会表彰規程に従って、下記のとおり第21回(2020年)日本免震構造協会賞の候補者を募集いたします。会員及び一般の方々の積極的な応募と推薦をお待ちしております。なお、作品賞は、2019年7月末日以前に竣工した建築物で、審査のための内部視察が可能な建築物を対象といたします。

●応募締切日 応募申込 2019年8月9日
(メール又はFAX可)

書類提出 2019年8月30日

●表彰式 2020年6月

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

●一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会

委員長 彦根 茂

委員 井田卓造 江副敏史 下吹越武人

竹内 徹 畠中克弘 東野雅彦

三田 彰

一般社団法人日本免震構造協会表彰規程

平成12年6月15日制定

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本免震構造協会(以下「協会」という。)の表彰について必要な事項を定め、免震構造等[建築物等に係る免震構造・制振構造等の応答制御構造(以下「免震構造等」という。)]の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した個人、法人及び団体に対して表彰することを目的とする

(表彰の種類)

第2条 表彰は、功労賞、技術賞、作品賞、業績賞及び普及賞の5種類に分けて行う。

(表彰の対象)

第3条 功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に贈る。

2 技術賞は、免震建築物等の設計、施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に贈る。

3 作品賞は、免震構造等の特質を反映した、格別に優れた建築物等の実現に主たる貢献を行った個人、法人及び団体に贈る。但し、作品の新築、改修等は問わない。

4 業績賞は、免震構造等の特質を反映した、建築物等の優れた設計、改修、保全、維持、復元、困難なプロジェクトの実現等において際立った業績をあげた個人、法人及び団体に贈る。

5 普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

(表彰)

第4条 功労賞、技術賞、作品賞、業績賞及び普及賞には表彰状と副賞を贈る。

2 表彰の時期は、原則として、協会の通常総会時とする。

(応募の方法)

第5条 協会会長(以下「会長」という。)は、毎年日本免震構造協会賞応募要領を定め、候補者を募集

する。

2 応募は、自薦又は他薦のいずれでも良い。

(表彰委員会)

第6条 日本免震構造協会賞の審査は、表彰委員会(以下「委員会」という。)が行う。

2 委員長及び委員は、理事会の同意を経て、会長が委嘱する。

3 委員会には、委員長の指名により副委員長1名を置くことがある。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その職務を代行する。

4 委員会は、委員長及び副委員長を含め、8名以内で構成する。

5 委員の任期は1期2年とし、原則として連続2期までとする。

6 委員長は、必要に応じ専門委員あるいは専門委員会を置くことができる。

7 委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

(受賞者の決定)

第7条 各受賞者を、委員会が選考し、会長が決定する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、理事会の議決による。

(細則)

第9条 この規程を実施するために必要な事項については、別に定める。

附則(最終改正)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

応募申込先及び応募に関する問合せ先

一般社団法人日本免震構造協会・事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18

JIA 館2階

TEL 03-5775-5432 FAX 03-5775-5434

E-MAIL hyosho@jssi.or.jp

日本免震構造協会表彰実績（第1回～第19回）

1. 第1回<2000年6月> 2件

功労賞

東京電機大学名誉教授 中野清司
（建設省建築研究所長、日本免震構造協会長などを歴任し、免震構造の普及発展、日本免震構造協会の発展に尽力）

功労賞

大日本土木株式会社 技術研究所副所長 跡部義久
（免震構造の普及発展、日本免震構造協会の設立に尽力）

2. 第2回<2001年6月> 5件

技術賞

- 1) 周期三秒前後の建物免震に関する一連の研究
株式会社大林組 沼本要七、橋本康則、寺村 彰、
奥田幸男
株式会社ブリヂストン 芳澤利和
- 2) 超高層免震
大成建設株式会社 川端一三、小室 努、木村雄一、
高木政美
昭和電線電纜株式会社 村松佳孝

作品賞

- 1) 稲城市立病院
稲城市長 石川良一
株式会社共同建築設計事務所 川島浩孝
株式会社東京建築研究所 中澤俊幸
株式会社設備工学研究所 矢萩栄一
- 2) 第一生命府中ビルディング
株式会社日本設計 中川 進、長堀嘉一
- 3) NSW山梨ITセンター
日本システムウエア株式会社 多田修人
株式会社白江建築研究所 白江龍三
株式会社ダイナミックデザイン 宮崎光生

3. 第3回<2002年6月> 5件

技術賞

- 1) レトロフィット免震に関する一連の研究
大成建設株式会社 小山 実、鈴木裕美、佐藤啓治、
杉崎良一
- 2) (特別賞) 免震住宅の普及化への取り組み
株式会社一条住宅研究所 高橋武宏、吉井邦章
株式会社一条工務店 深堀美英、平野 茂、岡村光裕

作品賞

- 1) 興亜火災神戸センター
株式会社竹中工務店 福山國夫、上田博之、池田英美、
鍋谷めぐみ、植田光治
- 2) 角川書店新本社ビル
株式会社角川書店 角川歴彦
株式会社大林組 浦 進悟、中村雅友、鶴田信夫、
堀 長生
- 3) (特別賞) 沢の鶴資料館
沢の鶴株式会社 西村隆治
株式会社黒田建築設計事務所 岩井英治
株式会社大林組 寺村 彰、藤川喬雄、田中耕太郎

4. 第4回<2003年6月> 6件

技術賞

- 1) 非同調マスダンパー効果を持つ中間層免震構造の設計法の開発

株式会社日建設計 村上勝英、木原碩美、小崎 均
東京理科大学 北村春幸

- 2) 風による免震部材挙動と免震建物風応答評価法
鹿島建設株式会社 竹中康雄、鈴木雅靖、飯塚真巨、
吉川和秀

株式会社ブリヂストン 鈴木重信

- 3) (特別賞) 慶應義塾大学理工学部 創想館
慶應義塾大学 吉田和夫
トキコ株式会社 呉服義博
株式会社大林組 落合正明、橋本康則

作品賞

- 1) 山口県立きららスポーツ交流公園多目的ドーム（きらら元気ドーム）
山口県 町田明德
株式会社日本設計 人見泰義、千鳥義典
- 2) 慶應義塾大学 日吉 来往舎
慶應義塾 安西祐一郎
清水建設株式会社 北村佳久、中川健太郎、吉田郁夫、
加藤喜久
- 3) (特別賞) SBSスタジオ棟
静岡放送株式会社 松井 純
大成建設株式会社 田中 勉、勝田庄二、平尾明星、
安井正憲

5. 第5回<2004年6月> 7件

技術賞

- 1) 建物上部に大型タワーを搭載する免震建物に関する一連の取り組み
株式会社エヌ・ティ・ティファシリティーズ
中野時衛、斉藤賢二、土肥 博、鈴木幹夫、余湖兼右
- 2) (普及賞) 村上市庁舎免震改修工事
村上市 佐藤 順、片野 清
鹿島建設株式会社 浅井 豊、石渡孝志、宮崎正敏

作品賞

- 1) 兵庫県立美術館
兵庫県 岸本勝也
安藤忠雄建築研究所 安藤忠雄
木村俊彦構造設計事務所 木村俊彦
金箱構造設計事務所 金箱温春
株式会社大林組 小林英博
- 2) プラダ ブティック青山店
プラダジャパン株式会社 Davide Sesia
株式会社竹中工務店 小塚裕一、中井政義、
大畑勝人、岡崎俊樹
- 3) セ・パルレ中央林間
株式会社日建ハウジングシステム 上河内宏文、
横山雄二
- 4) ポーラ美術館
株式会社ポーラ化粧品本舗 井上定利
株式会社日建設計 浅野美次、山本 裕、石田大三
株式会社竹中工務店 黒崎信之
- 5) (特別賞) 大阪市中央公会堂保存・再生
大阪市
大阪市住宅局営繕部
株式会社坂倉建築研究所 太田隆信
株式会社平田建築構造研究所 西村清志
株式会社東京建築研究所 山口昭一
清水建設株式会社 保地洋志

6. 第6回<2005年6月> 5件

技術賞

- 1) 履歴減衰型免震部材の統一復元力モデルの開発
北海道大学 菊地 優、山本祥江
清水建設株式会社 北村佳久、猿田正明、
田村和夫
- 2) フリープラン・長寿命・高耐久を実現した日本初の超
高層 PCaPC 免震建物
鹿島建設株式会社 上野 薫、堀内一文、
丸山 東、荒木修治
小田急建設株式会社 武菱邦夫

作品賞

- 1) マブチモーター本社棟
マブチモーター株式会社 亀井慎二
日本アイ・ビー・エム株式会社 関 幸治
株式会社日本設計 三町直志、大坪 泰
清水建設株式会社 早川 修
- 2) 清水建設技術研究所新本館
清水建設株式会社 矢代嘉郎、並木康悦、
神作和生、斎藤利昭、
折原信吾
- 3) 九州国立博物館
株式会社菊竹清訓建築設計事務所 松里征男
株式会社久米設計 千馬一哉、油田憲二
鹿島建設株式会社 大野隆久
大成建設株式会社 加藤幸信

7. 第7回<2006年6月> 6件

功労賞

- 1) 株式会社東京建築研究所 山口昭一

技術賞

- (特別賞) パーシャルフロート免震構造の開発
- 1) 清水建設株式会社 大山 巧、猿田正明、
田崎雅晴、堀 富博、
土屋宏明

作品賞

- 1) 慶應義塾大学(三田)南館
慶應義塾大学 吉田和夫
大成建設株式会社 芝山哲也、篠崎洋三、
長島一郎
株式会社日立製作所 讚井洋一
- 2) 信濃毎日新聞社本社ビル
信濃毎日新聞株式会社 小坂健介
株式会社日建設 常木康弘、長瀬 悟、
中西規夫
鹿島建設株式会社 金丸康男
- 3) ホテル エミオン 東京ベイ
スターツ CAM 株式会社 佐口竜也
株式会社日本設計 小林利和、浅野一行
前田建設工業株式会社 川述正和
- 4) (特別賞) 国際医療福祉大学附属熱海病院
株式会社医療福祉建築機構 佐々木邦彦
株式会社大林組 橋本康則、奥田 寛、
甲賀一也、田畑博章

8. 第8回<2007年6月> 4件

技術賞

- 1) 柱脚周りに限定された補強機構を用いた中間層免震レ
トロフィット

株式会社日建設計

向野聡彦、小野潤一郎、
木村征也

作品賞

- 1) 国立新美術館
株式会社黒川紀章建築都市設計事務所 黒川紀章
株式会社日本設計 人見泰義、中村 伸
鹿島建設株式会社 大野平雄
清水建設株式会社 田中純一
- 2) 東京建設コンサルタント新本社ビル
株式会社東京建設コンサルタント 岸 輝親
株式会社松田平田設計 藤森 智
清水建設株式会社 竹内雅彦、斎藤利昭、
野口高行
- 3) 味の素グループ高輪研修センター
味の素株式会社 坂倉一郎
株式会社久米設計 嵐山正樹、依田博基、
渡瀬利則
大成建設株式会社 平田尚久

9. 第9回<2008年5月> 7件

技術賞

- 1) 灯台レンズ用免震装置
株式会社奥村組 川井伸泰、舟山勇司、
安井健治
- 2) (特別賞) ゲージ振り子の原理に基づく新しい転がり
型免震装置の開発
東京大学 川口健一、大矢俊治
岡部株式会社 阿部啓一、阿部純一郎、
田口朝康

作品賞

- 1) ソニーシティ
ソニー生命保険株式会社 於久田太郎
株式会社プランテック総合計画事務所 大江 匡
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 柴田育秀
株式会社アルファ構造デザイン事務所 海野敏夫
清水建設株式会社 水田保雄
- 2) 多摩美術大学図書館(八王子キャンパス)
学校法人多摩美術大学 田淵 諭
株式会社伊東豊雄建築設計事務所 伊東豊雄
株式会社佐々木睦朗構造計画研究所 佐々木睦朗
鹿島建設株式会社 青木幹雄、山口圭介
- 3) 日産先進技術開発センター 事務棟
日産自動車株式会社 若狭保夫
株式会社日本設計 大坪 泰、人見泰義、
西川大介
清水建設株式会社 加藤喜久
- 4) (特別賞) 武蔵野市防災・安全センター
武蔵野市長 邑上守正
株式会社日建設 寺田隆一、長瀬 悟、
中谷 聡
大成建設株式会社 久保田清
- 5) (特別賞) セラミックパーク MINO
株式会社川口衛構造設計事務所 川口 衛、阿藤有士
永田構造設計事務所 永田秀正
株式会社磯崎新アトリエ 青木 宏
東急建設株式会社 服部宏己

10. 第10回<2009年6月> 7件

技術賞

- 1) 日本大学理工学部駿河台校舎5号館の免震レトロフィット
学校法人日本大学 石丸辰治
清水建設株式会社 湯山康樹、広瀬景一、
山岸俊之、横藤田弘
- 2) (特別賞) 高い座屈安定性を有する積層ゴム支承の力学挙動解明と実用化
東京都市大学 研究開発チーム 西村 功、杉野 潔、
安田 隆、佐々木頼孝、
中村 貴

作品賞

- 1) シスメックステクノパークR&Dタワー
株式会社竹中工務店 西崎隆氏、村上陸太、
熊野豪人、芹澤好徳、
石原 哲
- 2) 代々木ゼミナール本母校 代ゼミタワー
学校法人高宮学園 高宮行男
大成建設株式会社 輿石秀人、藤山淳司、
欄木龍大、岩田 丈
- 3) 木津川市庁舎
木津川市長 河井規子
株式会社日建設 多賀謙蔵、田代靖彦、
小松慎二
三井住友建設株式会社 永野輝和
- 4) 慶應義塾日吉キャンパス 協生館
学校法人慶應義塾 清家 篤
株式会社環境デザイン研究所 仙田 満
株式会社三菱地所設計 新居 仁、塚谷秀範
金箱構造設計事務所 金箱温春
- 5) (啓発普及功績賞) 奥村記念館
株式会社奥村組 木村修治、篠原 努、
服部晃三、得田健一、
中屋成人

11. 第11回<2010年6月> 6件

技術賞

- 1) 三越本店本館バリアフリー工事
～「都市型免震レトロフィット」～の実現
株式会社三越 石塚邦雄
株式会社横河建築設計事務所 西村嗣久、古宮謙二
清水建設株式会社 武藤 光、村井義則
- 2) 既存超高層建築の長周期・長時間地震動対策の技術開発とその実施
大成建設株式会社 細澤 治
明治安田生命保険相互会社 松尾憲治
大成建設株式会社 木村雄一、須田健二、
吉村智昭
- 3) エネルギー吸収効率を最大化するON/OFF制御型オイルダンパの開発と実用化
鹿島建設株式会社 栗野治彦、山田俊一、
田上 淳、清水 幹、
松永義憲
- 4) (特別賞) 超高層免震建物用大型免震支承部材の実大性能試験の実施
株式会社竹中工務店 嶺脇重雄、山本雅史、
東野雅彦、濱口弘樹
東京工業大学 和田 章

作品賞

- 1) ろうきん肥後橋ビル
近畿労働金庫 永田憲一
株式会社日建設 多賀謙蔵、嘉村武浩、
加登美喜子
株式会社銭高組 下土井節男
- 2) 株式会社前川製作所新本社ビル
大成建設株式会社 小林治男
株式会社前川設計一級建築士事務所 松本敏勝
大成建設株式会社 渡辺岳彦、田中 勉、
船原英樹

12. 第12回<2011年6月> 13件

功労賞

- 1) 須賀川勝
- 2) 中山光男

技術賞

- 1) (奨励賞) 二重構造による連結制振構造「デュアル・フレームシステム」の超高層RC造建物への展開
株式会社大林組 西村勝尚、大住和正、
福本義之、和田裕介

作品賞

- 1) 大林組技術研究所新本館(スーパーアクティブ制震構造)
株式会社大林組 勝俣英雄、石川郁男、
山中昌之、蔭山 満、
遠藤文明
- 2) 三菱一号館
三菱地所株式会社 村田 修
株式会社三菱地所設計 岩井光男、山極裕史、
小川一郎、野村和宣
- 3) 富士ゼロックスR&Dスクエア
富士ゼロックス株式会社 丸山巖浩
清水建設株式会社 山田祥裕、中川健太郎、
諸星雅彦、藍原弘司

普及賞

- 杉沢 充、小幡 学、三浦義勝、鈴木哲夫、鳥居次夫、
小山 実、猿田正明、

13. 第13回<2012年6月> 5件

特別賞

- 1) 石巻赤十字病院
石巻赤十字病院 金田 巖
株式会社日建設 木原碩美、染谷朝幸
鹿島建設株式会社 室井 博、鈴木祐二

技術賞

- 1) (特別賞) 阿佐ヶ谷「知粋館」
株式会社構造計画研究所 高橋 治、富澤徹弥
清水建設株式会社 須原淳二、黒澤 到
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男

作品賞

- 1) ソニー株式会社 ソニーシティ大崎
ソニー株式会社 齋藤賢吾
株式会社日建設 山梨知彦、向野聡彦
鹿島建設株式会社 桐生雅文
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男
- 2) オリックス本町ビル
株式会社竹中工務店 片山丈士、島野幸弘、
澤井祥晃、西尾和哉、
有田 博

- 3) (特別賞) サウスゲートビルディング
西日本旅客鉄道株式会社 尼崎 隆
ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社
越野栄悦
株式会社安井建築設計事務所 保田秀樹、松本孝弘、
秋田 智

14. 第14回<2013年6月> 9件
技術賞

- 1) 繰返し大変形下の積層ゴム力学特性変化と地震応答評価法に関する一連の研究
鹿島建設株式会社 竹中康雄、近藤明洋、
高岡栄治、引田真規子
東京理科大学 北村春幸

作品賞

- 1) ホテル近鉄京都駅
株式会社近鉄ホテルシステムズ 中山 勉
株式会社日建設計 吉澤幹夫、白沢吉衛、
仁科誠治
株式会社奥村組 野末 潔
2) 溶接会館
社団法人日本溶接協会 宮田隆司
鹿島建設株式会社 前田祥三、阿部太郎、
村松匡太、長井 勉
3) シティホールプラザ「アオーレ長岡」
長岡市 森 民夫
隈研吾建築都市設計事務所 隈 研吾
江尻建築構造設計事務所 江尻憲泰
大成・福田・中越・池田共同企業体 松井幸夫

普及賞

- 1) チュリス西麻布耐震改修工事
2) 石燈籠の免震改修—靖國神社大 lantern—
3) 高崎市総合保健センター 高崎市立中央図書館
4) 地下空洞直上に建つ市庁舎の免震レトロフィット
5) ヨーロッパハウス

15. 第15回<2014年6月> 8件
功労賞

- 1) 寺本隆幸

技術賞

- 1) 東北地方太平洋沖地震を経験した免震U型ダンパーの
残存疲労性能の調査及び残存疲労性評価法の確立
新日鉄住金エンジニアリング株式会社
小西克尚、川村典久
株式会社日建設計 村上勝英、染谷朝幸
東京工業大学 山田 哲
2) 「岐阜市民病院」免震・制振技術を活用した
特殊工法による病院の改築
株式会社山下設計 早野裕次郎、立川 淳、
朝倉純一、沢崎詠二

作品賞

- 1) 東京駅丸の内駅舎保存・復原
東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所
鎌田雅巳、金森勇樹
株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所
田原幸夫
株式会社東京建築研究所 蓮田常雄
鹿島建設株式会社 金丸康男

- 2) 清水建設本社
清水建設株式会社 小川哲也、竹内雅彦、中川健太郎、
島崎 大、金子裕介

- 3) 中之島フェスティバルタワー
株式会社朝日新聞社 曾根宏司
株式会社日建設計 吉田 聡、岡田 健
近畿大学 阿波野昌幸
株式会社竹中工務店 山本啓介

普及賞

- 1) 木造建物の免震レトロフィット
—製粉ミュージアム本館—
2) 御茶ノ水ソラシティ

16. 第16回<2015年6月> 7件
技術賞

- 1) 変形を制限した鋼製弾塑性ダンパーによる鉄骨梁の損傷低減工法の開発
鹿島建設株式会社 黒川泰嗣、瀧 正哉
澤本佳和、岡安隆史
株式会社小堀鐸二研究所 鈴木芳隆
2) パッシブ切替型オイルダンパーの実用化と都市型小変位免震建物の実現
大成建設株式会社 水谷太郎、欄木龍大
長島一郎、青野英志
カヤバシステムマシナリー株式会社
露木保男

作品賞

- 1) キューピー株式会社 仙川キューポート
キューピー株式会社 長谷部敏朗
株式会社日建設計 小坂橋裕一、柳原雅直
大成建設株式会社 喜田浩司
2) 岸本ビル
株式会社竹中工務店 岡田光博、森下泰成
須賀定邦、林 茂史
阿倍野センタービル株式会社 大橋千恵子
3) ガーデニエール砧 WEST
清水建設株式会社 高橋 啓、井川博英
小嶋一輝、鷺見晴彦
大作和己
4) Ribbon Chapel
NAP 建築設計事務所 中村拓志
Arup 柴田育秀、伊藤潤一郎
ピーエス三菱 檜垣 清

普及賞

- 1) 減災館における学習・体感・研究を通じた免震技術の普及・啓発

17. 第17回<2016年6月> 8件
功労賞

- 1) 西川孝夫

技術賞

- 1) 既存超高層建物に適用可能な大地震対応超大型 TMD の開発
鹿島建設株式会社 栗野治彦、黒川泰嗣
瀧 正哉、狩野直樹
中井 武
2) 巨大地震に対応する接続型スイッチダンパーの開発
株式会社安井建築設計事務所 安田拓矢
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男

THK 株式会社 半田市役所 名古屋大学	村尾秀己 青木賢治 福和伸夫
作品賞	
1) 大阪駅大屋根 西日本旅客鉄道株式会社 株式会社大林組	前田 満、尼崎 隆 西村勝尚、新居 努 北山宏貴
2) 日本橋ダイヤビルディング 株式会社竹中工務店	浜田勇氣、星野正宏
3) 静岡県草薙総合運動場体育館 静岡県知事 内藤廣建築設計事務所 鹿島建物総合管理株式会社 KAP	このはなアリーナ 川勝平太 内藤 廣 箕浦達也 岡村 仁、桐野康則
4) 品川シーズンテラス 大成建設株式会社 株式会社 NTT ファシリティーズ	大畑克三、岩井昭夫 牛垣和正 松本泰樹、中川明德

普及賞

- 1) 通天閣における既存鉄塔建造物の免震改修工事の実施

18. 第 18 回< 2017 年 6 月> 7 件

技術賞

- 1) 皿ばねとブレーキ技術を用いた高性能摩擦ダンパー「ブレーキダンパー」の開発
株式会社大林組
- 佐野剛志、鈴木康正
野村 潤、内海良和
後閑章吉
- 2) 水平 2 方向外力を受ける免震構造用 U 字形鋼材ダンパーの損傷評価法
東京工業大学
- 山田 哲、吉敷祥一
ENE Diana
- 東京理科大学
- 焦 瑜
- 新日鉄住金エンジニアリング株式会社 小西克尚

作品賞

- 1) 鉄鋼ビルディング
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社三菱地所設計
- 増岡祥文
溜 正俊、吉原 正
宮下正人
坂本雅之
- 大成建設株式会社
- 2) 笹川平和財団ビル
公益財団法人笹川平和財団
株式会社松田平田設計
- 羽生次郎
菊地岳史、藤田啓史
牧野健二
- 大成建設株式会社
- 伊藤清仁
- 3) G.Itoya (銀座・伊東屋) ロバスト性を有する 1 スパン高層制振建物
株式会社伊東屋
大成建設株式会社
- 伊藤 明
川口 恵、柴田宣伸
藤永直樹、高島 洋
- 4) 市立吹田サッカースタジアム
スタジアム建設募金団体
株式会社竹中工務店
- 本間智美
奥出久人、大野正人
野澤裕和、大平滋彦

普及賞

- 1) 竣工後 30 年を経過した免震建物に設置された積層ゴムの経年変化
株式会社奥村組
昭和電線ケーブルシステム株式会社

19. 第 19 回< 2018 年 6 月>

技術賞

- 1) エネルギー回生を導入した高効率制震オイルダンパの開発と実用化
鹿島建設株式会社
- 栗野治彦 福田隆介
田上 淳
- センクシア株式会社
- 銭 志偉

作品賞

- 1) 小学館ビル
小学館不動産株式会社
株式会社日建設計
- 坂本憲治
向野聡彦 郡 幸雄
早田友彦
増田孝弘
- 鹿島建設株式会社
- 2) 高知県自治会館
高知県市町村総合事務組合
株式会社細木建築研究所
桜設計集団一級建築士事務所
縦建築事務所
株式会社竹中工務店
- 池田洋光
細木 茂
佐藤孝浩
田尾玄秀
戸高恭明
- 3) 近畿大学 ACADEMIC THEATER
学校法人近畿大学
株式会社 NTT ファシリティーズ
- 萩原理実 吉川正規
宮崎政信
長島英介 岸本直也
- 4) 水天宮御造替 ―境内まるごと免震―
宗教法人水天宮
株式会社竹中工務店
- 有馬頼央
麻生直木 中根一臣
飯田智裕 水野吉樹
- 5) 蒲郡信用金庫本店
株式会社久米設計
- 横田 順 鎭流馬久明
熊王皓一 湯澤優登

業績賞

- 1) 東京ガーデンテラス紀尾井町
株式会社日建設計
- 小坂橋裕一 木村征也
安藤顕祐 長嶋千草
- 2) 山梨文化会館免震レトロフィット
株式会社山梨文化会館
株式会社丹下都市建築設計
株式会社織本構造設計
株式会社建築設備設計研究所
三井住友建設株式会社

普及賞

- 1) トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現
株式会社日建設計
元株式会社日建設計
株式会社北海道日建設計
清水建設株式会社
- 長瀬 悟
山脇克彦
小谷卓司
安富彩子 齊藤 穰

日本免震構造協会賞（作品賞）

楯



楯の制作者故片山利弘先生（1928年～2013年）の作品制作意図とプロフィール

<作品制作の意図> 相対する概念、不安と安定を、特殊な技術的表現手段により美的な、均衡空間に創生させることを目的として制作したものです（片山先生）。

<片山先生プロフィール>

1966年 ハーバード大学視覚芸術センターの招きで、アメリカ・ボストンに移住。

1990年 ハーバード大学教授・視覚技術センター館長となる。

また、最近の作品には次のようなものがある。

大原美術館ホールの石壁と石のレリーフ彫刻。協力、和泉正敏氏（1991）

三井海上本社ビルの壁 3m 高の窓象、線映と石の彫刻。和泉正敏氏と共作（1994）

JT 本社ビルホール壁画などの銅板によるレリーフ（1995）

第7回日本建築美術工芸協会（AACAA 賞、受賞）（1997）

日本免震構造協会賞（功労賞・技術賞・業績賞・普及賞）
トロフィー



鳴海製陶株式会社製 クレストトロフィー



一般社団法人 日本免震構造協会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA館 2階
TEL 03-5775-5432 FAX 03-5775-5434